

# 中央大学学員会 中大技術士会支部

## ニュースレターvol.37

会員の皆様へ

明けましておめでとうございます。慌ただしい毎日を送っているうちに、気づけば 2018 年です。今年は母校中央大学工学部との連携を強め、中大技術士会の実力を世の中に貢献して行く年にしたいと思います。よろしくお願いいたします。

昨年は北朝鮮のミサイル発射や、天候不順、食料品の値上げなど、例年になく慌ただしい年でした。「これから技術士はどのように活動して行くか！」を真剣に考えさせられた年でした。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org>) から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
<b>巻頭言</b>	2 ページ
■ 「平成 30 年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一	2 ページ
<b>活動報告</b>	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会報告	4 ページ
■ 大学支援部会活動報告	4 ページ
■ 企画部会活動報告	4 ページ
■ 広報部会活動報告	5 ページ
<b>活動計画</b>	5 ページ
■ 企画部会活動計画	5 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動計画	5 ページ
<b>技術士第一次試験合格者から</b>	6 ページ
■ 「技術士第一次試験合格体験記」：森田楓菜さん（都市人間環境学専攻）	6 ページ
■ 「技術士第一次試験合格体験記」：山岸波留己さん（商学部会計学科 3 年）	6 ページ
<b>リレーエッセイ</b>	8 ページ
■ 「趣味の釣りと仕事を通して環境保全」：伊藤 俊郎さん（環境部門）	8 ページ
<b>投稿エッセイ</b>	9 ページ
■ 「日本の借金」：大澤 勇さん（機械部門）	9 ページ

- 「平成 30 年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一（建設部門、総合技術監理部門）

平成 30 年を迎えるに当たり、平成 29 年の総括と平成 30 年の抱負を申し述べたいと思います。平成 29 年は、中大技術士会と大学との連携も深まりました。11 月に理工学部長が石井靖先生（物理学科）から榎山和男先生（都市環境学科）に変わりましたが、引き続き技術士ガイダンスなどで協力関係が築けそうです。



平成 29 年は、技術士一次試験で、4 年連続で在学生の合格者数全国 1 位を目指しましたが、残念ながら 2 位になってしまいました。平成 26 年の一次試験で初めて全大学の 1 位になり、平成 28 年まで 3 年連続 1 位でした。平成 29 年には大学技術士連絡協議会（大技連）でそのノウハウを開示する様要求されたほどです。中央大学の理工学部長はじめ各学科の先生方のご協力、在学生の頑張りによると報告しましたが、平成 29 年は合格率が極端に下がってしまい、4 年連続 1 位を逃しました。一方で卒業生と在学生を合わせた合格者数は平成 27 年から 7 位、5 位、そして今回は 3 位に上がってきました。今後が楽しみです。

平成 28 年からは 1 年生に対するオリエンテーションを大学から依頼され、2 年間継続しました。全学科の 1 年生から、技術士制度を知って貰うという試みです。各学科の技術士ガイダンスの前段階として充実させていきたいと考えています。

平成 27 年 10 月 25 日（日）に開催されたホームカミングデーで、後楽園校舎に法学部と法科大学院を持ってくるという構想が発表されました。この移転計画に中大技術士会として関与していきたいと昨年の年頭の抱負で申し述べましたが、大学の内外でいろいろ難しい問題があり、進展していないようです。

もう一つ東京オリンピックに使われる新国立競技場の脇に渋谷川を再生しようという構想があります。これは前述のホームカミングデーで理工学部都市環境学科の山田正教授と人間総合理工学科の石川幹子教授が対談された時に披露された構想です。この構想が国立競技場の設計から一度消えていましたが、石川先生の巻き返して、国立競技場の脇に森と水路を作るところまで進展しました。この計画には中大技術士会として若干の応援ができました。

以上昨年の中大技術士会活動と中央大学の状況について、概観しましたが、平成 30 年を迎えるに当たり、新年の抱負を少し申し述べたいと思います。

平成 30 年は、在学生の技術士一次試験の合格者数、全国大学 1 位をもう一度目指します。在生に対するオリエンテーション、技術士ガイダンス、模擬試験を効率的に組み立てて従来以上に充実させると共に合格率のアップに力を入れていきます。

更なる目標として一次試験合格者に中大技術士会の会員になって貰い、継続的な情報発信をして二次試験の合格者数を増やして行きたいと考えています。いずれは二次試験でも全国一位になりたいというのが長期的な目標です。

ホームカミングデーや理工白門祭、講演会、法曹会との交歓会なども更に充実し、こういう場に多くの中大技術士会の会員が集えるような機会を作っていきたいと考えています。

また渋谷川の再生に繋がる構想の実現にも積極的に関与したいと考えています。

以上

■ 幹事会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
平成 29 年度 第 5 回幹事会	11 月 8 日（水） 18：30～20：00	<p>(1) 各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部会 石井理工学部長(物理学科)から榎山教授(都市環境学科)に交替した。榎山教授は中大卒で、白門祭の期間中開かれた父母会で「技術士次第一次試験で、中大の学生合格者が 3 年連続第 1 位になったこと」を話されていた。</li> <li>・企画部会 ①10 月 22 日実施予定の「ホームカミングデー」は台風の接近で、出店が中止になったが本体行事は行われた。 ②1 月 3 日～5 日、理工白門祭が行われた。榎山理工学部長がブースに訪れ、内藤会長以下と名刺交換を行った。 ③人間総合理工学科の石川教授による講演会が 11 月 14 日に行われる。</li> <li>・広報部会 ①ドメイン更新手続きあり、サーバーの契約更新を行う予定である。 ②ニュースレターの編集担当である N 氏が、居住移転のため編集担当辞退の申し出であり、慰留を試みたが困難なことがわかり、後任の人選を広報部会で行っていく。</li> <li>・大学支援部会 ①11 月 18 日行われる「大学技術士会連絡協議会総会」に坂林副会長が、中大技術士会の一次試験対策について講演を行う。 ②9 月 30 日、模擬試験を実施した。今後は受験者数を 500 名以上となるよう啓蒙していく。 ③技術者倫理の講義は予定通り進行している。 ④筏プロジェクトに関する「工業所有権」に対して特許庁から「異議申し立て」が出され、特許事務所が意見書を作成中である。</li> <li>・CO2 環境対策技術研究会 ①11 月 24 日、日産自動車OBを招いて「自動車の最近の動向」について講演を予定している。</li> <li>・テクノロジー懇談会 電気電子情報通信工学科の担当教授と今後の進め方について相談、打合せを行っていく。</li> <li>・ミミズロボット 修理、メンテナンスが行いやすい構造に設計変更を実施中であるという報告があった。</li> </ul>

## ■ CO2環境対策技術研究会報告

行事名	開催日程	活動概要
H29 第 1 回幹事会 出席者 4 名	H29 年 9 月 21 日 (木) 18:30~20:00 中大後樂園校舎 5310 号 室	第 30 回研究会の企画 話題提供：内藤幹事長「CO2 のはなし」 第 8 回報告会 (8/5) の報告 報告会 16 名、交流会 15 名
H29 第 2 回幹事会 出席者 4 名	H29 年 11 月 16 日 (木) 18:30~20:00 中大後樂園校舎 5310 号 室	第 30 回研究会の応募状況 第 31 回、第 32 回研究会の企画 今後の研究会の進め方について討議
第 30 回研究会 研究会 18 名 交流会 16 名	H29 年 11 月 24 日 (金) 講演会：中央大学後樂園 校舎、交流会：春日町「風 我」	講演会：自動車の CO2 排出量削減に関する 最近の動向 講師：峯岸俊行技術士 交流会：「風我」で実施

## ■ 大学支援部会活動報告

項目	内容
「科学技術と倫理」講義	2018 年度も要請があれば、ゲストスピーカーを派遣する予定です。
技術士第一次試験の模 擬試験	9 月 30 日に在學生で技術士第一次試験を受験予定者に対して合格率を 高めるために模擬試験を実施した。
「技術者倫理」講義	2017 年度 (平成 29 年度) も 5 限 5233 号室で講義が行われた。
大技連第 10 回総会	11 月 18 日大議連総会に参加し中大における一次試験対策を発表した。

## ■ 企画部会活動報告

項目	内容
ホームカミングデー	日時：10 月 22 日 (日) 会場：多摩キャンパス 「無料技術相談会」として出店する予定であったが、台風接近による悪 天候が予想されて無料相談テントの企画が中止となったため、出店はと りやめになった。
理工白門祭	日時：11 月 3 日 (金) ~5 日 (日) 会場：後樂園キャンパス 6 号館 1 階ロビーにて「無料相談会」として出展
中大技術士会 H29 第 2 回講演会	日時：11 月 14 日 (火) 18:30~20:40 会場：後樂園キャンパス 講演会 2 号館 8 階 2841 セミナー室 交流会 2 号館 9 階 2901 オープンラウンジ 講師：中央大学理工学部 人間総合理工学科 教授 石川 幹子 先生 講演：「新しい国土・地球環境を支えるグリーンインフラの展開に向け て」 参加者：講演会 24 名、交流会 22 名

## ■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	①メーリングリストおよび Web 名簿のメンテナンス実施 ②サーバー利用更新手続き実施（12月）
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.37 作成、発行
HP新規掲載	① ニュースレターvol.36 の掲載 ② 第2回中大技術士会講演会開催案内掲載 ③ CO2 環境対策技術研究会第30回研究会報告掲載
その他	①新規入会者1名をメーリングリストに登録（技術士補1名）
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。 ③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」を共通テーマとしたリレーエッセイを募集しております。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。

## 活動計画

### ■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
法曹会との交歓会	未定	今年は法曹会が幹事担当のため、法曹会で企画する予定

### ■ CO2環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
H29 第3回幹事会	H30年1月18日（木） 18:30～20:00 中大後楽園校舎 5310号室	第30回研究会の報告 第31回研究会の企画 今後の研究会の進め方
第31回研究会	H30年4月末頃	見学先：調整中 交流会：調整中

### ■ 技術士第一次試験合格体験記：森田楓菜さん（理工学研究科都市人間環境学専攻）

私は昨年度の技術士第一次試験の環境部門を受験し、無事、合格することができました。受験を志したきっかけは、いくつかありますが、一番は「理系大学を卒業したことの証が欲しい」と思ったことです。大学4年生当時の私は、資格試験を全く受けたことがなく、履歴書に記入できるものはTOEICのみでした。このままでは、何も持たずに社会に出ることになると思い、受験を決めました。また、研究者やコンサルタントの方々に、技術士の資格を持っている人が多くいらっしゃることも、受験しようと思ったきっかけです。自分が大学で勉強したことを将来生かすためには、技術士の資格を持っていることは武器になると思ったからです。



大学4年に受験をしたため、卒業研究と並行して試験勉強をしました。私は、暗記が苦手であったため、専門科目は夏休み頃から無理のない程度で1日1時間ほど勉強しました。勉強方法は、過去問を中心に進めました。技術士のホームページから過去5年間分の問題を入手し、設問分野ごとに整理しました。参考書やインターネットを用いて、解説を書き込み、オリジナル過去問ノートを作成しました。基礎問題や適性問題は、試験2週間前から集中して過去問5年間分を2回ほど繰り返し解きました。技術士第一次試験は、例年似ている問題が多く出題されるので、当日も自分が勉強していたものと近い問題が多く、自信をもって解答することができました。

合格したポイントとしては、同じ研究室の友人と一緒に試験勉強をしたことが大きいです。お互いに勉強の進捗を確認することで、刺激になり、モチベーションが高まりました。わからない問題を話し合ったり、暗記のコツを教えあったり、楽しみながら試験勉強をすることができました。試験直前の週末にも、一緒に勉強をしたことで、焦らず、いつも通りに直前対策ができました。

技術士第一次試験は、基礎科目と適性科目は設問を選択して解答することができるため、分野を絞って集中して勉強することが可能です。また、先ほども述べたように、過去問と似た問題が出題される傾向があるため、試験対策がしやすい資格であると思います。社会人になる前に、ぜひ、大学生活で勉強を頑張ったことの証明として、受験をすることをお勧めいたします。

### ■ 技術士第一次試験合格体験記：山岸 波留己さん（商学部会計学科3年）

#### 1. 自己紹介

商学部会計学科3年の山岸波留己（やまぎし はるき）と申します。私がゼミで学んでいる分野は、専攻の会計学ではなく、FLP ジャーナリズムプログラム（※学部横断的に自分の興味のある分野を学べるゼミのこと、他に5つのプログラムが用意されている）の明治10年代後半における書籍の新聞広告を研究する広告学です。さて、私は今年度、技術士第1次試験に合格しました。今回は私の当試験の受験動機、勉強方法について書かせて頂き、今後試験を受ける私と同じような学部学生に少しでも参考になればと



思います。

## 2.技術士試験の受験動機について

私は、技術士という職業があるのを大学3年になるまで知りませんでした。商学部では公認会計士や税理士を目指す人が多いので、理系の国家資格はあまりなじみがなかったといえます。私は大学3年になり、自分の将来の進路について、自分の性格や行動を振り返り、理解した結果、技術者が一番向いているのではないかという結論に至りました。技術者と聞くと、理系出身の人というイメージがあります。私は、それなら自分が文系出身の技術者になってやろうという気持ちを持つようになりました。そこから、当試験のことを知り、当試験の中でも自分が学んでいる商学を活かせる経営工学の分野を選択しました。

## 3.技術士試験の勉強方法

技術士第1次試験には基礎・適性・専門科目の3種類があります。私の勉強方法は至ってシンプルです。具体的には、私が試験のために使った教材・素材は参考書3冊（基礎科目：日刊工業新聞社『技術士第1次試験「基礎科目」標準テキスト第3版』、専門科目：誠文堂新光社『図解でわかる会社の教科書「生産管理」』と同社『図解でわかる会社の教科書 品質管理』）と3科目分の過去問15年分だけです。試験の半年前から参考書3冊を完全に理解できるまで読み込み、試験の3か月前から実際の過去問を解いて、間違えた問題はすぐにノートに記録していきました。間違えた問題で特に用語について知らなかった場合は、あらゆる手段を用いて、記録していました。これは、再び問題を解き直した時に自分はどこの分野・用語に弱いのかを明らかにするための証拠になります。この方法は、私のような経営工学や理科に対する知識があまりない人でも活用できると思います。

## 4.今後当試験を受験される方へのアドバイス

私が当試験に合格したことによるメリットは数え切れないほどあります。身近な例としては現在行っている就職活動とその準備についてです。私が企業での面接や企業への訪問等でお会いしてきた社会人の方々には、技術士試験のことについて特に興味を持っていただいています。私自身も自信を持って自分の経験を伝えることができます。このように、技術士試験に合格することは自分の努力に自信を持ち、それを他人に伝えることができる1つとして取り組む価値のあるものと、今回の経験を通じて認識しました。

### ■ 「趣味の釣りを通して環境保全」：伊藤 俊郎さん（環境部門）

私は釣りが趣味で、小学校高学年より釣りをしてきました。湖沼でのフナ釣りに始まり、清流でのオイカワ、ウグイ釣り、ブラックバスのルアー釣り、海の船釣りなどいろいろな釣りをしてきましたが、50歳を過ぎた今、最も夢中な釣りは渓流のルアー釣りです。

もともと山登り、自然観察が好きで、職場である「環境調査会社」に勤めることを決めたのも、自然環境の保全に従事した仕事がしたいという思いがきっかけでした。

私が渓流のルアー釣りに魅かれた理由は、①誰もが簡単にできる、②餌釣りなどと比べ河川を広く探ることができる、③餌釣りより大きな魚が釣れる可能性がある、の3点です。

使用するものはルアー、釣り糸（ライン）、リール、竿（ロッド）の他に、川に入るためウエーダー（腰まである長靴：バカ長靴ともいう）が必要となります。

渓流で使用するルアーは様々なものがありますが、私は特にミノー（魚などをモチーフとしたもの）をよく使います。ミノーには、①フローティング（水に浮くもの）、②サスペンド（水の比重に近く、水中に停滞するもの）、③シンキング（水に沈むもの）の3種類があります（上記は見た目には区別はつきませんが、持ってみると重さの違いが感じられます）。

上記のうち、私はシンキングのもの、特にヘビーシンキングといわれる重めのものをよく使用します。

なぜ、ヘビーシンキングなのかというと、①よく飛び、河川を広範囲に探ることができる、②深い河川など、表層から河床付近まで遊泳層の選択が可能であり、河川全体を三次元的に探ることができるためです。

私は主に長野県の千曲川水系、群馬県の利根川水系の上流部に釣りに行っています。去年は長野県内千曲川水系の上流部、群馬県内の利根川水系上流部に行きましたが、ミノーを使用しヤマメ、イワナを多く釣ることができました。なお、私は釣った魚は原則放流（リリース）しておりますが、針がかりが悪く放流しても死んでしまう魚はおいしく頂いております。



ルアー（ミノー）



ヤマメ



イワナ

渓流のルアー釣りを始めた45年前に比べ、多くの魚を釣れるようになりました。これは昔に比べ、釣り道具の著しい進化のおかげもありますが、仕事（河川の調査）を通し、河川の水質、河



床・底質の状況、魚が捕食するカゲロウ、トビケラ、カワゲラ等の底生生物の生息状況、河川周辺の植生より魚の居場所（ポイント）を判断する能力が高まったことが大きいと考えます。

魚は多く釣れるようになりましたが、残念ながら天然魚の個体数は年々減っています。有害物質を含む工場排水による河川の汚濁は公害問題のピークであった昭和 40 年代に比べれば著しく改善されました。一方、①河川の開発（護岸工事、堰、ダムなどによる遡上の阻害）、②乱獲、③地球温暖化など、様々な環境変化により天然魚の個体数は激減しています。

釣りをし始めた 45 年前と比べ森林の伐採などの開発行為、地球温暖化により台風やゲリラ豪雨が多発し、河川への土砂の流出頻度が多くなり岩や礫が砂泥に埋もれた河川を多く目にします。岩や礫が砂泥に埋もれた状態になると、前述のカゲロウ等魚が捕食する底生生物が生息できなくなり、魚自体も隠れ家となる岩がないため生息しにくくなります。また、多くの河川でブルーギルやブラックバス等、魚食性の強い特定外来生物の繁殖が見られ、在来生物への影響が懸念されます。

釣りで得た知識を河川環境保全の提案に繋げたい、また、仕事で得た知識を釣りに活かしたいに繋がる提案材料としていきたい。

そうしてこれからも良好な河川環境を永続的に残していくことにほんの少しでも寄与できたらと思います。

※次回のリレーエッセイの執筆を中大技術士会幹事、國島 旭さんをお願いします。

## 投稿エッセイ

### ■ 「日本の借金」： 大澤 勇さん（機械部門）

一昨年病で仕事から遠ざかって以来、読書量が増えた。その殆どはエンタテイメントもので、市立図書館で借りるので金銭的負担がないのがうれしい。最近経済の入門レベルの本を読み、柄にもなく日本の財政状態を考えさせられた。経済的知識の乏しさ故間違いもあるかと思ひ、また以下の話も先々見当はずれの与太話となるかもしれないのだが、お時間が許されるならお付き合いいただけたら幸いである。



### ◆ 多額な国債発行は能天気な亭主による夫婦間借金に似たり

昨年 12 月に発表され一般会計予算案によると、約 33 兆円の新たな国債を発行するそうだ。予算案が約 97 兆円だからおよそ 34%に当たる(今までに積み上げた発行残高は 2018 年末には 883



兆円と予測されるそうだ。\*6 この状態を家計支出の 34%は外部からの借金で賄われる不健全な家庭と例えられる。しかし、それなら借金の率はともかく、まともな借金である。いま国債の約 90%以上は日本国内に保有されている。海外で保持されている 10%を除き、その気になれば踏み倒せる貸借関係なのである。言うなれば外面ばかり良い能天気な亭主による働き者の妻への借金である。ここで亭主は国、妻は国民である。何故なら、外部に損害を与えない夫婦間の借金は民事裁判にはならないからである。日本国債は超低利で大量に発行されても売れる、それは日銀が買い戻しているからで、経済

上の禁じ手を使った状態である。なんと、発行済国債の約 40%を日銀が保有しているそうだ、左のアニメのように No problem ではないのである。

#### ◆ 積み立てた年金もやがてなくなる。

借金の最大原因は約 40 兆円の医療費の国庫負担である。しかしこの大幅な減額は生活の質の低下に直結し政治的に実施不可能と考えられる。また、年金の積立金も運用利回り 1.4%、賃金上昇率 0%、物価上昇率 0%と想定しても 2033 年にはなくなり、税金や集めた積立年金から年金を即支払う自転車操業になると予測されるそうである。厚生労働省が言う、あと 100 年間年金積立金は増え続けると言う話は、その前提条件の甘さ故とても信じられない\*5。

#### ◆ EU の加盟要件

突然だが、EU の財政面での加盟要件に次の様な事項があるのをご存知だろうか。

1. 年間の財政赤字が GDP 比の 3%以下である事\*1。
2. 累計債務残高が GDP 比の 60%以下である事\*1。

もっとも、この基準を満たさない国も最初から加入していたようではあるのだが。



#### ◆ 日本は EU に加盟できない破綻国家

ではこの要件に関して日本はどうか、財務省発表の 2015 年の統計値では 1.の財政赤字が 36.5%(加盟要件値の 12.2 倍)、2.の債務残高が 160.1%(加盟要件値の 2.7 倍)である\*2。この財務省発表残高に鉄道、空港、各種公団、第三セクター等も加えるとさらに増して累計債務は GDP の 250%(加盟要件値の 4.2 倍)だと指摘するアメリカの経済誌もある。もし日本がヨーロッパに位置し EC に加盟申請しても、加盟できない国家なのである。

#### ◆ 過去日本は同様な累積債務を乗り越えたのだが

日本は過去にも似た様な財政状態に陥った事があったそうである。戦時国債の乱発を続けた第二次世界大戦の直後である。しかしこれを国家は預金封鎖と財産税及びハイパーインフレ(物価が数日で大幅に上がる激しいインフレ)で乗り越えた。なんの事はない、国が積み上げた債務をそっくり国民に負担させたのである。もっとも、人類史上ある程度以上の財政赤字をインフレ以外の形で解決した事実は歴史上ないそうだが\*4。



#### ◆ 巨大債務対策はインフレ誘導？

現在政府はインフレ(物価上昇)率 2%と言う目標を掲げている。2%程度のインフレ状態で経済が最もよく機能すると政府は言っている、しかし確たる経済成長のあてもないのにインフレターゲットを掲げるのは、敗戦直後の『いつか来た道』へのゆるやかな誘導と勘ぐる事もできる。そもそもインフレとは『物価の上昇と貨幣価値の下落が継続的に続く状態の事であり』巨大な借金を有するものには特に有利だが、賃金やささやかな自営業を主な収入とする多くの国民の苦しみは大きい。

#### ◆ 財政赤字解消のシナリオは。

そうすると、考えられる将来の財政赤字解消のシナリオは次の二つが考えられる。

- ① 日本国債の不信で国債金利が上昇し、急激なインフレが起こり財政赤字は霧散解消するが、財産を守る術を持たない多くの国民は大損する。返せるあてのない巨大な借金を有する国の

国際社会での信用失墜は何かのきっかけで突然起こる。実際に海外の投資ファンドが日本国債の金利上昇利益を狙って国債買いをしかけるが、国債発行残高があまりに巨大な為、金利が上昇せず失敗しているようだ。

- ② 新たな価値を生み出す競争力の強い産業が誕生し、税収が増え国は経済的に安定し、国民の生活も安定している。

この②こそ望ましい最良の赤字解決である。しかし過去の歴史を見れば、①になる可能性も高い、時の政府はこの借金は国民の為に使ったのだから、国民が痛い思いをするのは当然である、と言うだろう。長生きできれば、積み立てた金額より多くの年金を受給する我々世代は、ボディーにジャブを打たれた気分になるかもしれない。働く事がままならない経済的弱者は途方に暮れるだろう。しかし②の可能性もあり得る。過去にアメリカは巨大な生産力と圧倒的なシェアを有し、永遠に続くと思われていた鉄鋼産業、自動車産業に代わる強力なIT産業を実現したし、イギリスは伝統的な製造業に替えて強固な金融業を確立した。だから日本もできるのではないか。しかし新たな価値を生み出す競争力の強い産業とは具体的にどんなものなのだろうか？ 有効的仮説をたて、試行錯誤を繰り返した後に見いだせるかもしれない、とその実現過程の痛みには耐えられるか首をかきげながら思っている。もっともその頃自分はすでに過去帳の住人になって“あの世”にいると思っているのだが。

\*1：EUにおける通貨統合(参考)経済収斂基準

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/euro\\_gaiyou.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/euro_gaiyou.html)

\*2：戦後の国債管理政策の推移 <https://www.mof.go.jp/jgbs/reference/appendix/hakkou01.pdf>

\*3：ティモシー・テラー 経済学入門(ミクロ編) 経済学入門(マクロ編)

\*4：野口悠紀雄 1940年体制

\*5：野口悠紀雄 日本経済の大問題

\*6：2017年12月23日 朝日新聞朝刊

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ [toiawase@chuo-u-pej.org](mailto:toiawase@chuo-u-pej.org)  
2018年1月号 中大技術士会 広報部会 発行